

日本語の「誘い」場面におけるEメールの談話構造と表現形式

—母語話者と中国人学習者の分析を通じて—

Discourse structure and linguistic forms of “Invitation” in e-mail writing -Through the Analysis of Japanese native speakers and Chinese learners of Japanese

文学研究科国際言語教育専攻日本語教育専修修士課程修了

嶋田みのり

Minori Shimada

キーワード：書くためのコミュニケーション研究、誘い、談話構造、場面、言語行動

- I. はじめに
- II. 先行研究の概要と問題点
- III. 本稿における「誘い」と場面
- IV. 研究方法
- V. 分析方法
- VI. 調査結果
- VII. 考察
- VIII. 今後の課題

I. はじめに

本稿は、日本語母語話者と中国人日本語学習者（以下、中国人学習者）の「誘い」場面におけるEメールの談話構造と表現形式を比較、考察し、日本語教育へ役立てようとするものである。

近年、Eメールによるコミュニケーションが急激に増え、日常生活において「書く」コミュニケーション活動が増えているが、日本語教育において、それを指導するための教材や研究はまだ追いついていないのが現状である。

由井（2005）は、初級文型の定着を目的とした副教材や、要約文あるいは論文・レポートを書く上級・超級学習者向けの教材はあっても、実生活のための書く教材が少ないことを指摘し、コミュニケーションのための「書く」活動を指導する必要があると述べている。そして、コミュニケーション教

育を行うためには、その場固有の相手や媒体などを含んだ実際の「場面」の考慮が必要であると指摘している。

野田（2012）は、これまでの日本語教育が言語学的な研究の論理に従っていることを批判し、従来の日本語研究が実際のコミュニケーション教育の現場に活かされていないことを指摘している。そして、日本語教育をコミュニケーションの教育へ変えていくためには、母語話者あるいは非母語話者が個々の状況でどのように日本語を使っているかというコミュニケーション研究が必要であると述べている。

本稿では、こうした由井（2005）や野田（2012）の指摘を踏まえ、中国国内の大学で日本語を学ぶ中国人学生が会う具体的な場面の一例として E メールを用いた誘い場面を取り上げる。E メールを媒体とした「誘い」場面を取り上げた理由は、筆者が中国国内の大学で日本語を教えていた際に、学習者の「誘い」の E メールに不自然さを感じたからである。そこで、本稿では、まず、中国人学習者の Eメールの不自然さの原因を明らかにするため、日本語母語話者及び中国人学習者の Eメールの談話構造と表現形式を分析する。そして、両者を比較、分析した上で、実際の日本語教育でどのような指導が必要かを考察する。

II. 先行研究の概要と問題点

1. Eメールのコミュニケーションに関する先行研究

Eメールのコミュニケーションについての研究には、李（2004）、蔡（2005）、宮崎（2007）等があるが、これらは依頼に関するものであり、勧誘に関するものは管見の限り見当たらない。

宮崎（2007）は、Eメールの難しさとして、表情や音声など非言語的・パラ言語的な情報が欠けるためニュアンスを伝えるのが難しく、適切な丁寧さと構成で書かなければ、対面場面より摩擦や理解のずれ違いが生じやすい点、また、相手の即時的な反応が見られないため、一人で談話を展開しなければならない点を挙げている。

2. 日本語教育の立場から勧誘を扱った研究

日本語教育の立場から勧誘の研究を行った研究には、筒井（2002）、鈴木（2003）等がある。

筒井（2002）は、勧誘を「一緒に行為をすることを求め、それに関する様々な決定を行うまでの一連の行為」とし、勧誘は〈勧誘〉と〈相談〉という異なる言語行動から成り、それぞれの中で用いられる言語形式や発話の機能等が異なると指摘している。例えば、「～ませんか」は、「お昼ご飯を食べに行きませんか」のように、〈勧誘〉における勧誘の発話となり、「～ましょうか」は、「どこに行きましょうか」のように〈相談〉における課題提示の発話になる。このように、単に勧誘の形式として「ませんか」や「ましょうか」を扱うだけでは不十分であり、会話の状況を認識し、それに合わせた文型や表現を的確に用いられるような指導項目の提示の仕方が重要であることを指摘している。

鈴木（2003）は、筒井（2002）の問題提起を継承発展させる形で、日本語教育の視点から、勧誘という言語行動を発話、談話、言語行動の三つのレベルから分析している。勧誘は、どのような状況で何に誘うかによって談話の展開も使用される発話も変化する。勧誘には、儀礼的な勧誘と実質的な勧誘があり、実質的な勧誘は、更にその場で実行される勧誘と実行されない勧誘がある。また、あらかじめ予定が決まっている勧誘と詳細は相談して決める勧誘があり、それぞれ状況に応じて談話展開や表現が変わる。それゆえ、会話教育において勧誘を扱う場合、単に勧誘の発話を教えるだけではなく、勧誘という言語行動を、状況に合わせて行うことができるようにしなければならないと指摘している。

また、対照研究の立場から勧誘行動を分析しているものに、日韓の勧誘ストラテジーについて研究した鄭（2009）や日中の勧誘ストラテジーを研究した黄（2011）などがある。

黄（2011）は、中国語母語話者と日本語母語話者の「誘い」の談話を比較し、中国語母語話者では日本語母語話者より共同行為要求の使用度が高く、積極的な誘い方をすることを指摘している。黄（2011）によると、日本語母語話者は、「相手の意向を尋ねる」表現を多用している一方、中国語母語話者は、「自分の意向を述べる」表現を多用し、押し付けるような言い方をすることで相手との心理的距離を縮めているとされる。

3. モダリティ研究における勧誘

勧誘をめぐる日本語学の代表的な研究として、安達（1995）と日本語記述文法研究会編（2003）が挙げられる。勧誘のモダリティには、専用形式は存在しないが、派生的モダリティとして「しよう」「しようか」「しないか」の3形式が勧誘のモダリティとして扱われている。

安達（1995）は、勧誘文を「話し手が実行する行為へ聞き手の参加を求める表現」（安達 1995:229）と定義し、勧誘を引き込み型とグループ型の2つのタイプに分類している。引き込み型とは、話し手の実行しようとしている行為に聞き手を引き込もうとするもので、グループ型とは、話し手と聞き手を1つのグループとみなすことによって、聞き手にも話し手と同じ行為の実行を求めるものである。

「しよう」「しないか」は、両方のグループにおいて使用できるが、「しようか」には引き込み型が存在しない。以下は、安達（1995）で示された例文である。

[引き込み型]

- (1) a. あなたもこの饅頭を食べないか?
- b. あなたもこの饅頭を食べよう。
- c.*あなたもこの饅頭を食べようか?

[グループ型]

- (2) a. 私たちもこの饅頭を食べないか?
- b. 私たちもこの饅頭を食べよう。
- c. 私たちもこの饅頭を食べようか?

4. 先行研究のまとめと問題点

以上、先行研究を見てきたが、問題点をまとめると以下ようになる。

日本語教育の立場から勧誘行動について取り上げたものには、筒井（2002）、鈴木（2003）があるが、会話教育を念頭においている。また、Eメールのコミュニケーションを扱った先行研究は少なく、「誘い」場面を扱ったものは管見の限り見当たらない。

また、日本語学の研究では、「しよう」「しようか」「しないか」の3形式が勧誘の代表的な形式として扱われている。そのため、文型積み上げ式の日本語の教材では、「しよう」「しようか」「しないか」の3形式を使用する「誘い」場面ばかりが取り上げられ、3形式を使わない「誘い」場面が見過ごされている。実際の個々の誘い場面において母語話者はどのような形式を使っているのか、その実態の調査が必要とされているのである。

Ⅲ. 本稿における「誘い」と場面

1. 「誘い」の定義

「勧誘」は、これまで発話行為論やモダリティ研究、談話分析等様々なアプローチから研究されているが、研究者やアプローチの仕方により定義が異なっている。

本稿では、言語行動としての「誘い」とモダリティ形式としての「勧誘」を区別する。本稿における「誘い」を以下のように定義する。

「誘い」…話し手が参加している、あるいはこれから参加しようとする「場」に聞き手も参加するよう提案する言語行動

「勧誘」…先行研究において勧誘のモダリティとして扱われている「Vませんか」「Vましょう」「Vましょうか」「Vてください」¹の表現形式を含む発話

2. 本稿で扱う「誘い」場面

本稿では、中国の大学で日本語を学習する大学生が会合う場面を想定し、クラスメートをバーベキューに誘うという状況を設定した。

送信者：イベントの幹事

受信者：①クラスメート全員

②クラスメート個人（仲の良い同級生）

③いつもお世話になっている同性の教員

内容：バーベキュー大会に誘う

¹ 姫野（1997）において、「Vてください」は勧誘の専用形式ではないものの、勧誘や依頼を含めた行為指示表現の汎用的な表現形式であるとしているため、本稿では、「Vてください」も勧誘の表現形式として扱う。

本稿で扱う「誘い」は、従来の研究における勧誘の典型的なパターンではない。典型的なパターンとは「来週の日曜日、一緒に映画を見に行きませんか」などの日本語教育でよく扱われている「誘い」場面である。このような場面は話し手と聞き手が対等な関係であるのに対し、本稿で扱う場面は、イベントの主催者と参加者という立場である点で異なっている。

IV. 研究方法

1. 調査方法

本稿では、2012年10～11月にかけて、日本人学生及び中国人学生に対してアンケート調査を行った。被験者に対し、所属する団体のメンバーと顧問の教員をバーベキューパーティーに誘うEメールを送るという課題を与え、①メンバー全員に一斉に送る場合（メーリングリストで）②個別に送る場合（相手：仲の良い同期のメンバー）③いつもお世話になっている顧問の教員に送る場合の3パターンのEメールを書き、実際に筆者に送信してもらうよう指示した。

A. 日本語母語話者向け

あなたが所属しているサークルで、今度親睦を図るためにバーベキューをすることになりました。あなたは幹事をするようになったのでメンバー全員に来てもらえるよう案内をEメールで送ってください。サークルのメンバーは今回のイベントについて事前に何も知りません。

日時：5月20日（日）12：00～

集合場所：浅川河川敷

費用：1500円

15日までにメールで知らせるように頼んで下さい。

B. 中国人学習者向け

あなたのクラスで、クラスメートとの親睦を図るためにBBQ（バーベキュー）を行うことになりました。あなたは、クラスのリーダーです。クラスメート全員に来てもらえるようにその活動内容をEメールで送ってください。クラスメートや先生は、今回の活動について事前に何も知りません。

日時：9月20日（日）12：00～

集合場所：岳麓公園前

会費：20元

参加できる人は、15日までにメールで知らせるように頼んで下さい。

2. 調査対象者

日本語母語話者の被験者は、日本国内の大学及び大学院に在学中の22名である。年齢は、20～30代で、男2名、女20名である。

中国人中国人学習者の被験者は、中国湖南師範大学3年生18名（男0名、女18名）、4年生20名（男2名、女18名）、湖南大学3年生10名（男2名、女8名）の計48名である。

V. 分析方法

まず、ザトラウスキー（1993）、宮崎（2007）を参考にし、メール全体を「件名」「開始部」「主要部」「終了部」の4つに分けた。更に、「主要部」は、「前置き」「主題」「情報」「返信要求」「補足」の5つに内容の観点から分類した。

次に、それぞれの談話で用いられた表現形式を分析し、内容と形式の観点から日本語母語話者と中国人学習者の比較を行った。誘いや断り、依頼等、言語行為に対して主に用いられる分析観点には、「発話機能」（ザトラウスキー1993）や「意味公式」（鄭2009、黄2010）があるが、本稿は、日本語母語話者と中国人学習者の文の内容と形式を比較するため、宮崎（2007）を参考にし、不足分は筆者が独自に付け加えた。

各談話構造の下位分類は、以下の通りである。

- ① 主題提示：イベントの開催を受信者に対して発表する発話
- ② 挨拶：受信者に対して挨拶をする発話
- ③ 名乗り：受信者に対して送信者の身分や名前を言う発話
- ④ 近況報告：送信者が所属するサークルの近況を報告する発話
- ⑤ 近況伺い：受信者の近況を尋ねる発話
- ⑥ 開催経緯：イベントの開催の理由や経緯を報告する発話
- ⑦ 都合伺い：受信者の都合を伺い、イベントへの参加の可否を尋ねる発話
- ⑧ 勧誘：受信者にイベントに参加するよう提案する発話
- ⑨ 依頼：受信者にイベントに参加するよう依頼する発話
- ⑩ 情報予告：イベントについての詳細な情報を伝えることを予告する発話
- ⑪ 情報提供：イベントについての詳細な情報を提供する発話
- ⑫ 返信要求：受信者に対して、メールの返信を要求する発話
- ⑬ 質問受付：受信者に対して、イベントに関する質問を受け付ける発話
- ⑭ 呼びかけ：受信者にイベントに参加するよう呼びかける発話
- ⑮ 期待表明：受信者の行為に対する期待を表明する発話
- ⑯ 署名：送信者の所属や氏名、連絡先

VI. 調査結果

本稿では、各メールの全体構造と表現形式について考察する。表現形式については、紙幅の都合上、主要部の主題及び返信要求と終了部のみ分析する。

1. 日本語母語話者の談話構造と表現形式

(1) クラスメイト全員に送る場合

a. 全体構造

まず、クラスメイト全員に送る場合のメールの全体構造を考察する。クラスメイト全員に送る場合のメールの全体構造は、表1の通りである。なお、分析の結果、用例が2例以上あるものを談話構造の中に取り入れている。

クラスメイト全員に送るメールの全体構造の特徴は、主要部において、勧誘や依頼など、相手に働きかける表現が一例もないという点である。一方、終了部において、呼びかけや勧誘など相手に働きかける表現を用いて、受信者に対し参加を促している。

表1 クラスメイト全員に送るメールの全体構造

談話構造の低位類型		例	
件名	主題提示	親睦会のお知らせ	
開始部	挨拶	こんにちは	
	名乗り	〇〇年の〇〇です。	
主要部	前置き	近況報告	新入生も加わり、わが〇〇サークルもにぎやかになってきましたね。
		近況伺い	疲れがたまってきていませんか?
		開催経緯	〇〇サークルもメンバーが増えよりにぎやかになりました。
	主題	主題提示	そこで、今度バーベキュー大会を行うことになりました。
		決意表明	みんなで楽しく食べて遊んで、親睦を深めていきたいと思えます。
	情報	情報予告	詳細は以下の通りです。
		情報提供	日時：〇月〇日 場所：〇〇駅前 費用：〇〇円
	返信要求	返信要求	参加できる人は、〇日までに返信してください。
	補足	質問受付	何かわからないことがあれば気軽に聞いてください。
	終了部	A:呼びかけ ²	みんなで楽しい親睦会にしましょう。
B:勧誘		みなさんぜひご参加ください。	
C:期待表明		みなさんの参加を心よりお待ちしております。	
D:挨拶		よろしくお願ひします。	
署名		親睦会幹事 〇〇(名前) 〇〇@〇〇(連絡先)	

b. 主題

次に、主題において使用されている表現形式を分析する。

² 「Vましょう」は、勧誘のモダリティ形式とされているが、ここでは、実質的な勧誘の機能をもたないため、「呼びかけ」とした。

主題とは、受信者に対しバーベキューの開催を告げる部分である。主題は、主題提示と決意表明によって構成される。ほとんどの場合は、主題提示のみであるが、(6) (7) のように主題の後に送信者の決意を表すものも2例観察された。主題の文末形式には、「Vすることになる」「V(意志動詞)ます」「Vたいと思う」「Vように思う」の4形式が見られ、意向伺いやメタ言語表現が付随するものがある。

<主題提示の形式>

	形式	出現数	出現率
決定報告	Vすることになりました	10	40.9%
意志表明	V(意志動詞)ます	6	27.3%
願望表明	Vたいと思います	5	22.7%
意志表明	Vように思います	1	4.5%
願望表明+意向伺い	Vたいと思いますが、いかがでしょうか	1	4.5%
決定報告 +メタ言語表現	Vことになりましたのでお知らせをさせていただきます	1	4.5%

<決意表明の形式>

	形式	出現数	割合
決意表明	Vていきたいと思います	2	9.1%

<例>

- (1) このたびサークルの親睦を図るために、下記の日程でバーベキューを開催することになりました！
- (2) この度、〇〇サークル親睦会としてバーベキューを行います。
- (3) そこで、20日の日曜日に浅川の河川敷でバーベキューをしたいと思います。
- (4) そこで今回親睦をより深めるため、5月20日の正午からバーベキューをしようと思います。
- (5) このたび、サークルの親睦を図るためにバーベキューをしたいと思いますがみなさまいかがでしょうか・・・？
- (6) この度、(サークル名)全体でバーベキュー大会を行うことになりました！！
みんなで楽しく食べて遊んで、親睦を深めていきたいと思います！
- (7) この度、〇〇サークル親睦会としてバーベキューを行います。新入部員のみなさんとサークルメンバーの親睦の場にしてきたいと思います。

c. 返信要求

返信要求は、メールの談話に特徴的な部分である。ここでは、依頼表現が用いられている。受信者に対して行為要求を行うため、受信者の負担が大きいと言える。しかし、全員一斉に送るメールでは、相手に配慮した表現が特に見当たらない。使用された表現形式は、以下の3つの依頼表現である。

<形式>

	形式	出現数	割合
遂行系依頼	Nをお願いします	9	40.9%
命令系依頼	N(を)ください	7	31.8%
命令系依頼	Vてください	6	27.3%

<例>

- (8) ※参加する方は15日までに、〇〇まで返信をお願いします。
- (9) 参加できる方は15日までに～に連絡ください。
- (10) 参加できる方は、15日21時までに私まで連絡してください。

d. 終了部

終了部は、メールの結びと署名で構成されている。メールの結びにおいては、呼びかけ、勧誘、参加への期待表明、返信への期待表明、挨拶の5種類が観察された。

日本語母語話者は、主要部において「Vてください」や「Vませんか」のような直接的な勧誘表現を避け、終了部に、「Vましょう」あるいは「Vてください」の表現形式を用いて相手に呼びかけたり、「待っています」等の表現を用いて受信者の参加や返信への期待を表したりしている。

<形式>

	形式	出現数	割合
呼びかけ	みんなでVましょう。	5	22.7%
勧誘	ぜひVてください。	2	9.1%
参加への期待表明	～をお待ちしております。	4	18.2%
返信への期待表明	連絡待ってます。	1	4.5%
挨拶	よろしくをお願いします。	10	45.5%

<例>

- (11) みんなで楽しい親睦会にしましょう?
- (12) みなさんぜひご参加ください。

(13) みなさんの参加を心よりお待ちしております！

(14) ご参加のほど、よろしくお願いいたします。

(15) よろしくお祈いします！！

(2) クラスメート個人に送る場合

a. 全体構造

クラスメート個人に対して送る場合のメールの全体構造は、表 2 の通りである。22 名中 2 名は、クラスメート全員に送る場合と同じであると回答した。そのため、本稿では、それ以外の 20 名のメールを考察する。クラスメート個人に送る場合の特徴は、主要部の主題に、都合伺いや勧誘などが入り、受信者に対して直接働きかける表現が入っていることである。

表 2 クラスメート個人に送るメールの全体構造

談話構造の下位類型		文例	
件名	主題表示	親睦会の開催	
開始部	挨拶	こんにちは	
	名乗り	〇〇年の〇〇です。	
主要部	前置き	近況伺い 元気にしてる？	
	主題	主題提示	今度〇〇でバーベキューをすることになったんだけど
		都合伺い	予定空いてる？
		勧誘	良かったら、参加しない？
	情報	情報予告	詳細は以下の通りです。
		情報提供	日時： 場所： 費用：
	返信要求	返信要求	もし参加できそうだったら 15 日までに私にメールください。
補足	質問受付	質問等があれば連絡ください。	
終了部	A:呼びかけ	みんなで盛り上がりたいたいからぜひ一緒に行きましょー♪	
	B:勧誘	是非参加してください。	
	C:期待表明	〇〇の参加待ってます。返信待ってます。	
	D:挨拶	よろしくお願いいたします	

b. 主題

クラスメート個人に送る場合、主題は、主題提示と勧誘から構成される。なお、主題提示のみの場合も 8 例見られる。

<形式>

・主題提示

	形式	出現数	割合
決定報告	Vすることになった	13	65.0%
意志表明	Vようと思う	5	25.0%
願望表明	Vたいと思う	1	5.0%
意志表明	Vます	1	5.0%

・勧誘

	形式	出現数	割合
勧誘	Vない?/Vませんか?	4	20.0%
参加の可否	Vれる?(可能形)/Vれますか?	3	15.0%
都合伺い	どう?/いかが?	2	10.0%
依頼	参加をお願いします/参加よろしく	2	10.0%
勧誘	ぜひVてください	1	5.0%
なし		8	40.0%

<例>

- (16) 5月20日の12時から浅川河川敷でバーベキューすることになったんだけど参加できるかな?
- (17) サークルでバーベキューをしようと思っているんだけど、来ませんか?
- (18) 今度の日曜日に、〇〇サークルでバーベキューをすることになったんだけど、どうかな?
- (19) 〇〇サークル親睦会としてバーベキューを行います。新入部員のみんなと仲良くなる機会だと思うので、ぜひ参加してください!
- (20) 急遽ですが、今度バーベキュー大会をやることになりました!皆で息抜き&メンバー同士の親睦深めなので、ぜひぜひ参加をお願いします。

c. 返信要求

返信要求では、様々な形式が使われている。クラスメート全員に送るメールの場合は、単文のみであったが、クラスメート個人に送る場合は、35%の母語話者が条件表現を選択している。また、(27)のように「～人は」「～場合は」の部分を省略したものも7例見られる。

依頼表現では、遂行系依頼表現や命令系依頼表現が多いものの、クラスメート全員に送るメールには見られなかった情意表出系及び願望表出系の依頼表現が出現する。

<形式>

	形式	出現数	割合
条件節	(もし) V (そう) だったら	3	15%
	(もし) V (そう) なら、	2	10%
	(もし) V れば	1	5%
	もしよろしければ	1	5%
～人は、	～人は、	3	15%
～場合は	～場合は	3	15%
省略		7	35%

<依頼表現の形式>

	形式	出現数	割合
遂行系依頼	N (を) お願いします	6	30%
命令系依頼	N をください	6	30%
命令系依頼	V てください	5	25%
情意表出系依頼	V たらうれしい	2	10%
願望表出系依頼	V とうれしい	1	5%

<例>

- (21) 参加できる方は 15 日までに~~~~~に連絡ください。
- (22) 参加できる場合は 15 日までに返信お願いします。
- (23) もし参加できそうだったら 15 日までに私にメールください。
- (24) 参加できれば、15 日までに〇〇@.pdx.jp に連絡ください。
- (25) もし参加できそうなら 15 日までに私に返信お願いします！
- (26) もしよければ、15 日くらいまでにご返信ください。
- (27) (参加できる場合は) 15 日までに返信くれたらうれしいです。

※ () 内は筆者が追加

d. 終了部

クラスメート個人にメールを送る場合、主要部と終了部がはっきり分かれていない場合が多く、終了部がないものも 3 例観察された。

<形式>

	形式	出現数	割合
返信への期待表明	連絡待っています	6	30%
参加への期待表明	〇〇の参加待っています	3	15%
呼びかけ	みんなでVましょう	2	10%
勧誘	ぜひVてください	2	10%
挨拶	よろしくお願ひします	4	20%

<例>

- (28) 返信まってまーす！
- (29) 〇〇の参加待ってます。
- (30) みんなで盛り上がりたからぜひ一緒に行きましょー♪
- (31) ぜひ参加してください♪
- (32) よろしくお願ひします。

(3) 担当教員に送る場合

a. 全体構造

担当教員に送る場合のメールの全体構造は、表3の通りである。担当教員に送るメールでは勧誘表現ではなく依頼表現によって行為要求を行っている。また、近況伺いや近況報告等の前置きがないことも特徴である。

表3 担当教員に送るメールの全体構造

談話構造の下位類型		例	
件名	主題表示	親睦会の開催	
開始部	挨拶	いつもお世話になっております。	
	名乗り	〇〇年の〇〇です。	
主要部	主題	主題提示	この度、サークル全体でバーベキュー大会を行うことになりました。
		依頼	〇〇先生にも是非ご参加いただきたく、ご案内をさせていただきました。
		都合伺い	ご都合はいかがでしょうか。
	情報	予告	詳細は以下の通りです。
		情報提供	日時：場所：費用：等
	返信要求	返信要求	ご多忙と存じますが、返信いただければ幸いです。
	補足	質問受付	ご不明な点などございましたら、お知らせください。
終了部	期待表明	部員一同先生のご参加をお待ちしております。	
	挨拶	よろしくお願ひします。	

b. 主題

主題は、主題提示、依頼および都合伺いから構成される。担当教員に送るメールでは、勧誘表現ではなく依頼表現が使用されている。また、半数の人がメタ言語表現を使用していることが特徴である。

<主題提示の形式>

	形式	出現数	割合
決定報告	Vすることになりました	15	68%
決定報告	Vする運びとなりました	2	9%
意志表明	Vします	1	5%
その他	Vようと考えています	1	5%
	Vする予定です	1	5%
	Nを計画しています	1	5%
	Nを企画しました	1	5%

<依頼の形式>

	形式	出現数	割合
願望表明 +メタ言語表現	Vて頂きたく連絡しました	11	50%
願望表明	Vて頂きたいと思う/Vて頂きたいです	3	14%
願望表明 +都合伺い	Vて頂きたいと思いますが いかがでしょうか	1	5%
情意表出	Vて頂けたらと思う	2	9%
情意表出 +メタ言語表現	よろしければと思い、連絡させていただきました	1	5%
意志要求	Vて頂けないでしょうか	1	5%
遂行系依頼	Nをお願いいたします	1	5%

<例>

- (33) この度、下気の日程で〇〇部の親睦会を行うことになりました。つきましては、是非〇〇先生にもご参加いただきたく、連絡させていただきました。
- (34) 今度、〇〇サークルの親睦会を行うことになり、ぜひ〇〇先生にも参加して頂けたらと思い、連絡しました。
- (35) そこで、お忙しいところかと思いますが、もしご都合がよろしければ〇〇先生もぜひ参加して頂けないでしょうか?

c. 返信要求

目上の人に対して、バーベキュー大会への参加を依頼し、その上、返信を要求するという行為は、聞き手にとって負担度が大きいいため、遂行系依頼表現や命令形依頼表現は少なく、より配慮された情意表出系依頼表現が多く現れる。また「お手数ですが」「お忙しい中とは存じますが」などの前置き表現も見られる。なお、省略とは、「～場合は」という主語の部分が省略されている文のことである。

<形式>

	形式	出現数	割合
条件節	もし～ようでしたら	6	27%
～場合は	Vできる際は/場合は	2	9%
省略		14	64%

<例>

- (36) もしご参加いただけるようでしたら、15日までに私〇〇（アドレス）までメールをいただけると幸いです。
- (37) 参加できる際は、15日までに返信して頂けると幸いです。
- (38) 大変恐縮ですが、15日までにご返信いただきたく存じます。

<返信要求の文末形式>

	形式	出現数	割合
情意表出系	Vると助かります/うれしいです/幸いです	6	27%
情意表出系	Vれば助かります	4	18%
情意表出系	Vたらと思う	2	9%
情意表出系	Vればと思う	1	5%
命令系	Vてください	4	18%
願望表出系	Vたいと思う/Vと思う	2	9%
遂行系	Nをお願いします/Vするようお願いします	3	14%

<例>

- (39) 15日までに参加の有無をご連絡いただけると嬉しいです。
- (40) もしご都合がよろしければ、15日までに〇〇に連絡頂ければ幸いです。
- (41) もし、参加できましたら15日までに連絡を頂けたらと思います。
- (42) ご参加いただける場合は、お手数ですが下記のアドレスまでご返信ください。
- (43) 大変恐縮ですが、15日までにご返信いただきたく存じます。

d. 終了部

終了部は、参加への期待表明又は挨拶である。参加への期待表明とは、先生の参加を心から楽しみにしている旨を伝え、是非来てもらいたいという願いを表すものである。終了部がないものが3例あったが、いずれも返信要求において「よろしくお願いします」という表現を使用している場合である。

<形式>

	形式	出現数	割合
挨拶	よろしくお願い致します	12	54.5%
参加への期待表明	参加を心よりお待ちしております	6	27.3%
返信への期待表明	連絡お待ちしております。	1	4.5%

2. 中国人学習者のEメールの特徴

ここでは、中国人学習者のEメールに見られた特徴について述べる。主に、日本語母語話者のEメールと異なる点や特徴について見ることにする。

(1) クラスメート全員に送る場合

a. 全体構造

中国人学習者のEメールの談話構造の特徴は、日本語母語話者に比べて開始部や主要部の前置きの出現数が少なく、主題から始まる例が多い。また、終了部がないメールが48例中34例もあり、日本語母語話者のような「開始部」「主要部」「終了部」という文章構造になっていないメールが多数見られた。

また、主題部の主題提示の後に「勧誘」や「呼びかけ」等、相手に働きかける表現が多かったのも特徴である。日本語母語話者のメールには、相手に働きかける表現は、終了部にはあっても主要部にはほとんど見られない。

表4 クラスメイト全員に送るメールの全体構造

談話構造の下位類型		例	師 3	師 4	湖 3	日	
件名	主題提示	親睦会のお知らせ	○	◎	◎	◎	
開始部	宛名	みなさん	○	○	○	○	
	挨拶	こんにちは	○	△	△	◎	
	名乗り	〇〇年の〇〇です。	△	×	×	○	
主要部	前置き	近況報告					
		近況伺い					
		開催経緯	〇〇サークルもメンバーが増えよりにぎやかになりました。	△	△	△	○
		感謝	日頃私の仕事を協力していただき、 どうもありがとうございました。	×	△	×	×
	主題	主題提示	そこで、今度バーベキュー大会を行うことになりました。	◎	◎	◎	◎
		決意表明	みんなで楽しく食べて遊んで、親睦を深めていきたいと思います。	×	×	×	△
		勧誘	皆さん、一緒に参加しませんか。	△	○	△	×
		呼びかけ	一緒に楽しい集まりをやりましょう～	△	△	△	×
		願望表明	クラスメイト全員に来てもらいたいです。	△	△	×	×
	情報	情報予告	詳細は以下の通りです。	△	△	△	◎
		情報提供	日時：〇月〇日 場所：〇〇駅前 費用：〇〇円	◎	◎	◎	◎
		アピール	たくさんおいしいものが食べられるよ	△	○	△	△
返	返信要求	参加できる人は、〇日までに返信してください。	◎	◎	◎	◎	
補足	質問受付等	何かわからないことがあれば気軽に聞いてください。	△	△	×	△	
終了部	呼びかけ	みんなで楽しい親睦会にしましょう。					
	勧誘	みなさんぜひご参加ください。	△	△	△	◎	
	期待表明	みなさんの参加を心よりお待ちしております。					
	挨拶	よろしくお願ひします。					
	署名	親睦会幹事 〇〇（名前）〇〇@〇〇（連絡先）	△	△	×	○	

※×…出現率 0%、△…1%～29%、○…出現率 30%～70% ◎70%以上

※師 3…湖南師範大学 3 年生、師 4…湖南師範大学 4 年生、湖 3…湖南大学 3 年生

日…日本語母語話者

b. 前置きと接続表現

中国人学習者のメールでは、48 例中 13 例に前置きが見られるが、そのうち 8 例は主題との繋がりが不自然なものである。例えば、(44) や (45) のように「では/じゃ」や「だから」の順接型の接続詞が用いられている例や (46) のような「この度」がないために不自然な例である。一方、日本語母

話し手には見られなかったメタ言語表現が見られるメールがあり、その場合は、主題と上手く接続している。メタ言語表現とは、(47) のような例である。

このように、中国人学習者のメールには、前置きや接続表現、あるいは「この度」がないために唐突な印象を受けるものが多い。また、(48) のように、「この度」を正しく使用していない例もあり、「この度」の正しい用法を指導する必要があるといえる。

		師 3	師 4	湖 3	日
前置きあり	前置き+そこで+主題	0.0%	0.0%	0.0%	27.3%
	前置き+ということで+主題	0.0%	0.0%	0.0%	4.5%
	前置き+では/じゃ	5.6%	10.0%	0.0%	0.0%
	前置き+だから	0.0%	0.0%	20.0%	0.0%
	前置き+主題	5.6%	10.0%	0.0%	0.0%
	メタ言語表現+主題	11.1%	15.0%	0.0%	0.0%
前置きなし	この度+主題	5.6%	25.0%	0.0%	36.4%
	今度は+主題	16.7%	0.0%	20.0%	0.0%
	今度の N は	16.7%	10.0%	20.0%	0.0%
	突然ですが+主題	0.0%	0.0%	0.0%	13.6%
	主題のみ	50.0%	30.0%	40.0%	18.2%

<例>

(44) 皆さん、こんにちは。勉強のストレスがいっぱいですか。気分転換していますか。クラスメートと仲良くなりたいですか。*では、BBQ を参加しましょう。

(45) 先学期から今まで、皆さんと一緒に外でいて遊ぶということはほとんどないようです。*だから、今度、チャンスがある以上、クラスメートとの親睦を図るために、来週の日曜日（9月20日12:00～）BBQを行うになります。

(46) 皆様、また新学期になりました。和やかなクラス雰囲気をかもし出すためにBBQを行うことになりました。

(47) みなさんこんにちは。今度のBBQの計画の知らせです。

(48) 皆さん、こんにちは。*今度はBBQを行うことになりました。

c. 主題

中国人学習者のEメールでは、主題に「Vましょう」「Vませんか」「Vましょうか」という、いわゆる勧誘のモダリティ形式が入るものが48例中15例に見られる。日本語母語話者のEメールでは、呼びかけとして「Vましょう」が終了部に見られるものの、主題部に「Vましょう」「Vませんか」「Vましょうか」の3形式は見られない。

(49) ?皆さん、私たちクラスメートのお互いの親睦を図るために、BBQ（バーベキュー）をしまし
ようか。

(50) クラスメートとの親睦を図るために、9月20日に、クラスの皆でバーベキューをしたいと思
います。皆さん、一緒に参加しませんか。

(51) 皆さんこんにちは! ?クラスの活動として、一緒にBBQしましょう!

「Vませんか」は、日本語母語話者のメールには見られなかったが、(50)のように、中国人学習
者が使用しても違和感はさほど感じられない。しかし、(49) (51)のように「Vましょうか」「V
ましょう」の使用は、不自然である。この点については、次節で考察を行う際に、改めて取り上げる
ことにしたい。

(2) クラスメート個人に送る場合

a. 全体構造

クラスメート個人に送るメールにおいても、学習者のメールには、開始部や前置き、そして終了部
がないものが多い。

表5 クラスメート個人に送るメールの全体構造

談話構造の下位類型		文例	師 3	師 4	湖 3	日
件名	主題表示	親睦会の開催	○	○	○	○
開始部	挨拶	こんにちは	△	△	△	◎
	名乗り	〇〇年の〇〇です。	×	×	×	△
主要部	前置	近況伺い	△	△	×	○
	主題	主題提示	◎	◎	◎	◎
		都合伺い	△	×	×	△
		勧誘	○	○	○	○
	情報	情報予告	△	△	△	◎
		情報提供	◎	◎	◎	◎
	返信 要求	返信要求	◎	◎	◎	◎
補足	質問受付	×	×	△	△	
	アピール	△	○	○	△	
終了部	A:呼びかけ	◎	◎	◎	◎	
	B:勧誘	△	△	△	◎	
	C:期待表明	△	△	△	◎	
	D:挨拶	△	△	△	◎	

b. 主題

クラスメート個人に送るメールにおいて、対人関係を損ねるような表現がいくつか見られた。例えば、(52) のように動詞の普通形で終わるものや、(53) のような「？」がないため意味が変わってしまうもの等がある。

(52) ○○さん、9月20日には岳麓公園でバーベキューがある。

(53) 一緒に参加しない。

c. 返信要求

中国人学習者の返信要求の表現形式の特徴として、条件表現が多くみられることが挙げられる。日本語母語話者で条件表現を使用した人の割合は、35%であるが、中国人学習者の場合は、68%の中国人学習者が条件表現を使用している。しかし、条件表現は、制約が多いため、以下のように誤用が多く見られた。

(54) *参加できたら、15日までメールで知らせてください。

(55) ?参加できるなら15日まで私にメールを送っていい。

(56) ?参加するなら、返信ください！お願いします。

(57) ?行きたかったら、15日までに私にメールを送る。

(58) ?もし参加したいのなら、15日までにメールで知らせてください。

(59) ?締切は15日で、参加したければ、この日までメールで知らせてください。

(60) ?参加してくれたら、15日までにメールで知らせてくれますよ。

仮定条件を表す「XたらY」は、XがYに時間的に先行することがらを表すため(54)のように、XよりYが時間的に先行する場合は、非文になり、(61)のような場合でなければ使用することができない。

(61) 当日遅れたら、連絡してください。

もし、(54)を「たら」を用いて表現するならば、(62)の日本語母語話者の例のように様態の「そうだ」や「ようだ」を共起させ、「参加できると判断した場合に、返信してください。」と解釈できるようにしなければならない。

(62) もし参加できそうだったら15日までに私にメールください。

このように、制約が多い条件表現を選ぶ中国人学習者が多い理由として、母語の転移が考えられる。中国語母語話者のEメールでは、返信要求は、「如果～的?」の形式が用いられるため、中国人学習者は「如果～的?」をそのまま「もし～たら」と訳してしまったのではないかと推測される。

(63) 如果能参加的话,请在15日之前回复此条信息。

(64) 如果想参加的话15号之前发短信给我啊。

また、返信要求の文末形式には、以下のような誤用例が見られた。

(65) *参加できるなら 15 日まで私にメールを送っていい。

(66) *行きたかったら、15 日までに私にメールを送る。

(67) ?行くか行かないか早く返事して…

(67) は、文法的にはあっているが、親しい友人に対して送るメールでも少し配慮に欠けた表現である。

(3) 担当教員に送る場合

a. 全体構造

教員に送るメールの全体構造は、表 6 の通りである。クラスメートに対するメールに比べ、前置き表現が多く出現し、中国人学習者も教員に対してかなり配慮した日本語表現を使用していることが分かる。

表 6 担当教員に送るメールの全体構造

談話構造の低位類型		例	師 3	師 4	湖 3	日	
件名	主題表示	親睦会の開催	◎	◎	◎	◎	
開始部	挨拶	いつもお世話になっております。	◎	◎	△	◎	
	名乗り	〇〇年の〇〇です。	△	×	△	◎	
	詫び	お忙しいところ、申し訳ございません	△	○	△	△	
	感謝	いつも私たちのためにお世話になりまして、本当にありがとうございました。	△	○	△	△	
	近況伺い	お元気ですか	×	○	×	×	
主要部	主題	主題提示	この度、サークル全体でパーベキュー大会を行うことになりました。	◎	◎	◎	◎
		依頼	先生も一緒にいらっしゃってくださいませんか。	◎	○	○	◎
		都合伺い	ご都合はいかがでしょう。	△	△	×	△
		期待表明	先生が来ていただければ嬉しく存じます。	△	○	△	×
	情報	予告	詳細は以下の通りです。	△	△	×	◎
		情報提供	日時：場所：費用：等	◎	◎	◎	◎
	返信要求	返信要求	ご多忙と存じますが、返信いただければ幸いです。	◎	◎	◎	◎
	補足	質問受付	ご不明な点などございましたら、お知らせください。	△	×	×	△
アピール		きっといい思い出になると思いますよ！	×	△	×	×	
終了部	呼びかけ	是非私たちと一緒にいきましょう	×	×	○	◎	
	期待表明	部員一同先生のご参加をお待ちしております。	△	△	△	○	
	挨拶	よろしく願います。	○	○	×	○	

b. 主題

筆者は、配慮が必要な依頼表現は中国人学習者にとって最も難しいのではないかと想定していたが、現実のデータを見ると、対人関係を損ねるような誤用例はほとんど見られなかった。

形式	師 3	師 4	湖 3
ぜひご臨席を賜りたく、ここに謹んでご案内申し上げます。	5	1	0
V いただけませんか	2	1	2
N もいらっしやいませんか	2	2	0
V ていただけないでしょうか	0	1	0
V てくださいませんか	1	2	0
V てください	1	1	1
V するようお願い申し上げます	2	2	0
V ていただければ幸いです	0	0	0

c. 返信要求

返信要求も、依頼同様、中国人学習者にとって難しい表現ではないかと考えていたが、実際の中国人学習者のメール表現には、文法的な間違いがあっても、対人関係を損ねるような誤用はほとんどない。クラスメート個人に送るメールで問題となった条件表現の誤用も少なく、「もしよろしければ、V てください」のように正しく条件表現を用いることができていた。また、文末形式に関する誤用も少ない。

	師 3	師 4	湖 3
V するようお願い致します	3	9	1
V ください。	3	2	5
V くださいませんか	4	2	1
V いただけませんか	2	2	2
V ていただきたいのですが、よろしいでしょうか	1	0	0
V ていただければ、ありがたいです/助かります	0	2	0
V ていいと思う	1	0	0

VII. 考察

以上、日本語母語話者と中国人学習者の E メールを分析し、全体構造と各談話における表現形式を詳しく分析し、以下のことが分かった。

1. Eメールの全体構造

まず、日本語母語話者の Eメールの全体構造は、開始部、主要部、終了部に分けられる。開始部は、「挨拶」、「名乗り」から成る。主要部は、「前置き」、「主題提示」「情報」「補足」から構成さ

れる。前置きでは、「近況報告」、「近況伺い」、「開催経緯」がみられる。主題は、クラスメート全員に送る場合、「主題提示」や「決意表明」などが見られ、「勧誘」や「依頼」等相手に働きかける表現は見られない。それに対し、クラスメート個人に送る場合は、「勧誘」、教員に送る場合には、「依頼」がみられる。終了部は、「呼びかけ」、「勧誘」、「期待表明」、「挨拶」から構成される。

中国人学習者のEメールは、開始部、主要部、終了部の構成が日本語母語話者のようにはっきり現れなかった。特に、クラスメート全員に送る場合や、クラスメート個人に送る場合において、開始部や前置きが少なく主題部から始まるものが多い。また、前置きがあっても主題とうまく繋がっていないものや、導入標識がないためにやや唐突な印象を受けるメールが多い。このため、日本語教育の指導では、Eメールの基本構造を教えるとともに、「今度」などの導入標識を明示的に教えるべきだと考える。

2. 主題

日本語母語話者がクラスメート全員に送ったメールの主題には、勧誘や依頼等の行為要求表現は一例も見られず、クラスメート個人に送るメールでは主に勧誘表現、教員に送るメールでは依頼表現が見られた。このように、日本語母語話者は、同じ「誘い」場面においても、対人関係によって勧誘表現と依頼表現を使い分けている。

一方、中国人学習者は、クラスメート全員に送るメールにおいても、勧誘や呼びかけ、そして願望表明が48例中19例見られ、こうした表現を使用する傾向があるといえる。このような相手に働きかける表現は、相手にやや押しつけがましい印象を与えるため、対人関係によって、表現を使い分けるよう指導する必要があるといえる。

姫野(1998)によると、勧誘と依頼は、受益者が誰であるかによって分類することができるが、この受益者というのは、客観的にではなくあくまで話し手の主観によって決まるものであると言える。つまり、話し手が「(私のために)～してもらいたい」という気持ちが強ければ強いほど、話し手は、勧誘表現より依頼表現を選択すると考えられる。このように、主観によって決まる受益者は、文化の違いによって差異が出てくるのではないかと考えられる。

高梨(2011)は、自分が所属するサークルのコンサートの相手に誘う場面において、日本語母語話者は依頼表現を使うのに対し、非母語話者は勧誘表現を使う傾向がみられることを指摘しているが、これも母語話者と非母語話者の受益者に関する価値観の違いではないかと筆者は考える。この異文化間の価値観の相違についての考察は、今後の課題としたい。

3. 勧誘の表現形式と「Vましょうか」に関する考察

ここでは、勧誘の表現形式「Vましょうか」について少し考察したい。日本語教育において勧誘のモダリティとして「Vませんか」「Vましょう」「Vましょうか」が扱われているが、フォード丹羽

(2005) や山下 (2011) で指摘されている通り、「V ましょう」「V ましょうか」は、中国人学習者にとって習得が難しい形式である。筆者は、その一因として、日本語学の「勧誘」の定義が実際の言語行動としての「誘い」と異なっているために日本語教育において混乱が生じている可能性があると考ええる。

日本語記述文法会編 (2003) では勧誘のモダリティは、「話し手の行為を前提として、聞き手に行為の実行を誘いかけることを表すもの」と定義されており、以下の例文が示されている。

(68) そろそろ、帰りましょうか。

(69) A「今晚、何か食べない?」

B「そうだねえ。焼肉を食べようか」

しかし、この2文は、言語行動として見ると、「誘い」とは言えないように思われる。

(70) ?「じゃ、そろそろ帰ろうか」と誘った。

(71) A「今晚、何か食べない?」

B?「焼肉を食べようか」と誘った。

現実の言語行動としての「誘い」は、「映画」や「コンサート」など、話し手が参加するあるいは参加しようとする「場」に聞き手も参加するよう働きかけることである。そのような「誘い」の言語行動においては、いきなり「V ましょうか」を使用することはできない。「V ましょうか」を使用するには、「誘い」の交渉過程の中で、既に相手と何らかの認識を共有している必要がある。

日本語教育においてよく扱われる (68) のような発話においても、聞き手と話し手は、既に同じ「場」におり、これから行こうとする「場」も既に聞き手と共有していると考えられるため、聞き手に対して参加を求める言語行為とは言えない。日本語教育で扱う文法用語は、現実の言語行動と一致するような用語を考えなければならないと考える。

4. 待遇表現

アンケート調査前、筆者は、最も中国人学習者の誤用が多いのは、教員に送るメールだろうと考えていたが、実際に各談話にみられる表現形式を分析したところ、対人関係に影響を与えるような誤用が最も多く見られたのは、クラスメート個人に送る場合のメールであった。中国人学習者は、目上の人に対しては、配慮しなくてはならないとの意識を持っていると考えられるが、親しい友人に対するメールには、相手に失礼な表現がいくつも見られた。例えば、以下の (72) (73) は同一人物が書いたメールである。(73) も文法的な誤用が多く見受けられるが (72) のメールのほうが深刻な問題をもつことは明らかである。

(72) ○○さん、9月20日12時から岳麓公園でクラス活動として全員がバーベキューを行うことを決めたので、できるだけ参加してください。

それから、集合場所は岳麓公園前だ。

会費は 20 元だ。

参加できるなら 15 日まで私にメールを送っていい。

(73) ○○先生、4 年生 1 組は 9 月 20 日 12 から岳麓公園でバーベキューを行うことになりましたので、よろしければ、参加していただけますか？

もし参加できますなら、皆は岳麓公園前に先生を期待しています。

中国人学習者は、目上の人に対するメールを書く場合は、丁寧な表現を使おうとするが、親しい友人には、あえて丁寧な表現を使わないことによって心的距離を縮めようとしていると考えられる。しかし、親しい友人であっても、(72) のようなメールをもらうと、対人関係に悪影響が及ぶ可能性がある。本稿では、なぜ (72) のような誤用が多いのかについての原因を明らかにすることはできなかった。これからの日本語教育では、敬語表現あるいは配慮表現を教えるだけでなく、親しい友人と正しくコミュニケーションがとれるような教育が必要とされているのである

VIII. 今後の課題

本稿では、限られた「誘い」場面しか調査ができなかった。そのため、他の「誘い」場面についても調査を行い、「誘い」場면을体系的に分析する必要があると考える。

また、本稿では、中国人学習者の誤用の原因については、分析することができなかった。中国人学習者の誤用の原因が、母語の影響なのかそれとも教科書等、他の要因なのかを分析する必要がある。今後、中国語との対照研究を詳細に行い、中国人学習者の母語の影響についても明らかにしていきたい。

《参考文献》

- 安達太郎 (1995) 「シナイカとシヨウとシヨウカー勧誘文— 宮島達夫・仁田義雄編『日本語類義表現の文法(上)』 pp.226-234, くろしお出版
- 蔡胤柱 (2005) 「日本語母語話者の E メールにおける『断り』」『日本語と日本語教育』33, pp.59-108, 慶応義塾大学日本語・日本文化教育センター
- 黄明淑 (2011) 「『誘い』表現における中日対照研究—「共同行為要求」に着目して—」『日本語/日本語教育研究』2, pp.137-154, ココ出版
- ザトラウスキー・ポリー(1993)『日本語の談話の構造分析—勧誘のストラテジーの考察—』日本語研究叢書 5, くろしお出版
- 鈴木睦 (2003) 「コミュニケーションからみた勧誘のしくみ—日本語教育の視点から—」『社会言語科学』6-1, pp.112-121, 社会言語科学会
- 高梨信乃 (2011) 「行為要求について—日本語教育における問題—」『神戸大学留学生センター紀要』17, pp1-17, 神戸大学留学生センター
- 筒井佐代 (2002) 「会話の構造分析と会話教育」『日本語日本文化研究』12, pp.9-21, 大阪外国語大学日本語講座
- 鄭在恩 (2009) 「日韓の勧誘ストラテジーについて」『言葉と文化』10, pp.113-132, 名古屋大学大学院国際言語文化研究科 日本言語文化専攻
- 仁田義雄 (1991) 『日本語のモダリティと人称』ひつじ書房
- 日本語記述文法研究会編 (2003) 『現代日本語文法 4 第 8 部モダリティ』くろしお出版
- 野田尚史 (2011) 「日本語教育に必要なコミュニケーション研究」野田尚史編『日本語教育のためのコミュニケーション研究』 pp.1-20, くろしお出版
- 姫野伴子 (1997) 「行為指示型発話行為の機能と形式」『埼玉大学紀要』33-1, pp.169-178, 埼玉大学教養学部
- 姫野伴子 (1998) 「勧誘表現の位置—「しよう」「しようか」「しないか」—」『日本語教育』96号, pp.132-142, 日本語教育学会
- 姫野伴子 (2000) 「勧めの表現形式」『留学生教育』3, pp.1-11, 埼玉大学留学生センター
- 宮崎和人・安達太郎・野田晴美・高梨信乃 (2002) 『モダリティ』くろしお出版
- 宮崎玲子 (2007) 「電子メールにおける依頼の展開構造—日本語母語話者とタイ人日本語学習者の対象研究—」『日本語・日本文化研究』17, pp.175-184, 大阪外国語大学日本語講座
- 由井紀久子 (2005) 「書くための日本語教育文法」野田尚史編『コミュニケーションのための日本語教育文法』 pp.187-206, くろしお出版
- 李佳盈 (2004) 「電子メールにおける依頼行動—依頼行動の展開と依頼ストラテジーの台日対象研究—」『言語文化と日本語教育』28, pp.99-101, お茶の水女子大学日本言語文化学会
- 山下由美子 (2012) 「『しよう』『しようか』の意味・用法—日本語教育への提案—」『創価大学大学院紀要』33, pp.299-327, 創価大学大学院
- 山岡政紀・牧原功・小野正樹 (2010) 『コミュニケーションと配慮表現』明治書院